

## 広域ヨーロッパ研究センター（WE R C）

### 平成21年度活動報告

2010.4.16

#### 1) 黒海国際関係に関するシンポジウムの開催：

- ・10月1日~2日、イスタンブールのボアジチ大学にて、国際シンポジウム“Black Sea Region in International Relations: Old Issues, New Trends”（ボアジチ大学国際関係学部およびWE R Cの共催、日本黒海学会協力、文科省科学研究費（A）の支援）を開催した。海外の黒海研究者15名（トルコ、ルーマニア、ブルガリア、ウクライナ、グルジア、イギリス、ドイツ、アメリカ）と日本の専門家9名が参加し、歴史、経済、黒海地域政治、広域ヨーロッパ国際政治の4次元から、黒海地域国際関係の現状と将来の見通しについて議論した。報告書はWE R Cのホームページにおいて掲載予定である。

#### 2) 海外の研究機関との新たな協定締結：

- ・ブリュッセル自由大学（U L B、ベルギー）の欧州問題研究所との学術交流協定について、同研究所長のドニー女史（Ms. Dony）およびポンヤエール（Mr. Ponjaert）国際交流委員（アジア地域担当）と小久保が個別に協議し、協定調印の方向で合意する。その後、本学薬学部およびU L Bの薬学研究所との間でも学術交流協定に向けた動きが出てきたことに伴い、広くブリュッセル自由大学と静岡県立大学との間で大学間協定を締結する方向で努力することで合意。本学国際関係学部および薬学部において基本了承が得られたので、平成22年度に改めて大学間協定に向けて具体的に調整する方向にある。

#### 3) 講演会・ワークショップ

- 第1回 平成21年11月12日（講演会）  
講演者：レインハルト・ドリフテ（ニューキャッスル大学名誉教授）  
テーマ：「欧州と中国」
- 第2回 平成21年11月26日（講演会およびワークショップ）  
講演者：コリーヌ・ドゥフランス女史（フランス国立学術研究センター）  
テーマ：「ヨーロッパ統合過程における仏独交通歴史教科書」
- 第3回 平成21年11月18日（講演会およびワークショップ）  
講演者：田中俊郎教授（慶應義塾大学法学部）  
テーマ：「世界の中でEUを考える」
- 第4回 平成22年1月（講演会）  
講演者：長井伸仁氏（徳島大学）  
テーマ：「19世紀パリの地方出身者」
- 第5回 平成22年1月26日（講演会）  
講演者：ミルチャ・パシク（欧州議会外交副委員長、元ルーマニア国防大臣）  
テーマ：「国際システムの構造変動：欧州からの視点」
- 第6回 平成22年2月9日（講演会およびワークショップ）  
講演者：ギュン・クット（ボアジチ大学国際関係学部准教授）  
テーマ：「トルコ外交と現代国際政治」
- 第7回 平成22年3月30日（ワークショップ）  
テーマ：「ドイツ・フランス共通歴史教科書の射程」  
報告者：松井克行（大阪府立三島高校）「日本の高校教育現場から見た独仏共通歴史教科書」

齋藤一晴（明治大学）「東アジアから見た独仏共通歴史教科書」  
討論者：庄司潤一郎（防衛研究所）、西山暁義（共立女子大学）

#### 4) ワーキング・ペーパーの充実

・栗田和典教授：17世紀末の名誉革命前後にはじまった近世ロンドンの治安維持機構の変容について、おもに二次文献によりながら、18世紀後半から1829年首都警察法までの展望をつけた論文を執筆。この研究の一部を『ことばと文化』13号に発表。また、ワーキング・ペーパーとしてWERCのウェブサイトに掲載。

・剣持久木准教授：仏独共通歴史教科書の射程を、東アジアでの日本の位置、日本の高校の歴史教育との比較を視野に入れて考察したものを掲載。2006年秋の新学期に教育現場に導入され、2008年末には日本語版も出版された高校三年生向けの教科書（現代史）、2008年秋に使用が始まった高校2年生向けの教科書（近代史）について、内容の分析はもとより、現場での反応もふまえ、その可能性と限界について多角的に分析した。研究成果については、2010年5月に開催される日本西洋史学会小シンポジウムでも報告する予定。

・宮崎晋生講師：「産業政策と企業家精神：ヨーロッパに「官僚たちの夏」はやってくるのか？（仮題）」かつてはコンピュータ産業をはじめとして「協調と競争」により日本の成功が言われてきたが、ヨーロッパとの比較によってその意味を探ろうとするものを掲載。

#### 5) ウェブサイト（HP）構築と運営

・広域ヨーロッパ研究センターのウェブサイトは、平成21年4月に開設された。内容は、講演会・ワークショップをはじめとする企画の告知、研究員の紹介、活動記録であった。学部の「European Studies 関連科目」を集約し紹介する一覧と「関連リンク集」がのちにこれに加わった。

・平成21年11月からは、デザインの刷新と大学のサブドメインの取得を計画し、平成22年3月より実施した。

・運営は、次年度より複数の研究員が担当することが決定し、情報の発信と更新に迅速に対応できる体制となった。

#### 6) 「第3回日本・黒海対話」の開催

・第三回「日本・黒海対話」シンポジウムが、日本グローバルフォーラム及び黒海経済協力機構（BSEC）による共催、WERC、外務省などによる後援の下、1月26日~27日にかけて、「変化する黒海地域の展望と日本の役割」と題して開催された。WERCからは六鹿が第一セッションの報告者として、廣瀬が第三セッションのコメンテーターとして参加した。同会議の報告および議論は、以下の報告書として出版された。Report of the Third Japan-Black Sea Dialogue on “Prospects of Changing Black Sea Area and Role of Japan”, January 26-27, 2010.3, Tokyo, Japan.

#### 7) 「日本イスパニア学会2009年度第55回大会」の後援

・2009年10月10日（土）と11日（日）の両日、本学で2009年度日本イスパニヤ学会第55回大会を開催した。スペイン語圏の〈言語〉〈文学〉〈言語教育〉の3セッションに分かれ、30の研究発表が行われた。また、記念行事として、『ドン・ファン』の観劇と『ドン・ファン』アフタートークを、演出家 オマール・ポラス氏などを招いて静岡芸術劇場にて行った。大会には205名が参加した。